

A 班 アンナプルナ展望コース

「アンナプルナ展望ハイキング」

古田逸子

12月2日 0128 予定より約1日半遅れてタイ航空で関西空港離陸、バンコックへ。倉田艦長、向井運用長が、所用で予定通り帰国しなければならない為、運航予定のたないネパール航空を諦め、我々A班と、B班の中の6名とで取り敢えず先行することとなった。バンコックから再びタイ航空でカトマンズへ。1245(LT)着。後発組は、無事ネパール航空で関空を出て夕方7時頃には到着の予定と聞き、一同一安心。

12月4日 シェルパ頭に先導されて10時発のCosmic Airline約40人乗りの小型機でポカラ(820m)に向かう。飛行約1時間。前の座席の背に“use cushion for flotation device”の文字(水の上は飛ばないからマアいいか)。雲は多いが、雪を戴いたラムジュンヒマール(6932m)周辺の山々の上部が見え早くも感動が始まる。着陸後、直



着陸直前のカトマンズ空港付近(上空から)

ぐにトレッキングの準備基地のような所に案内され、我々の荷物、テント、食料などをハイエースに積み込んで、ポーター、コック、シェルパと共に、総勢10名で10時半頃出発。町外れで入山許可証を受け取り、フェディ



フェディ~オーストリアンキャンプ間。登山道の脇に作られた休憩用の壇で一休み。チベット難民の少年少女達は、我々が休めば休み、歩き出せばその後からついて来た。



飛行機のシート(カトマンズ ポカラ)

(1130 m) 經由カーレ(1770 m)へ。所要約1時間。カーレの“峠の御休み処”のような場所でカトマンズから持参した幕の内弁当で昼食の後1時半頃いよいよ歩き始める。ポーター達は、荷物を入れた竹籠の紐を額に掛け、いとも軽々スタスタあつという間に見えなくなった。我々はカメラ、デイバック程度の軽装。曇天だが暖かく、右下がりの斜面に切られた石段の多い山道(地図によれば trail)を登りはじめて約30分でダウンパーカーは着ていられなくなる程。この道は、山の上の方の農家の生活道路でもあり、凸形に石を積み、背の荷物を凭せ掛けて休めるように作った壇が所々にある(無知な私は、初め、何かのモニュメントかお墓かと思いましたが)前後をシェルパに挟まれ、篠竹のような細い竹の多い、さほど急でもない林間の道を登ること約2時間半、突然視界が開け、菜の花

や大根畑の間を歩いて行くと間もなくオーストリアンキャンプ(2232 m)に到着。日中放牧する水牛避けに積んだ石垣に囲まれて、三段に切ったテントサイト、そこから一段下がった広場にサイト経営者(兼業農家)の家、ゲストハウス(約10名収容)が有る、開豁な場所である。雲はいよいよ厚さを増し、風も少し出て寒い。この寒さの



オーストリアンキャンプ手前、約5分の所
黄色の小さい花を咲かせているのは、菜の花畑(採油用)



オーストリアンキャンプ
右上の青空にかすかに見えるのは、ヒウンチュリ(6441m)か



店開き - 担いできた荷を拡げるチベット人少女。
奥の茅葺きの亭で宴会中の諸氏に、紅茶を運ぶポーター。
右のトタン屋根は炊事場。

中で、カーレからずつついてきたチベット難民（と称する）の少女2人と少年1人が地面に布を拡げ、ネックレスその他のお土産品を並べ始めたのには驚いた。キャンプ地の北側に見える筈のアンナプルナヒマール、マチャプチャレは雲の中。こうなったら飲むしかないではないですか。温かい紅茶も出され、一息ついたところで、巧みな日本語でしきりに呼び掛けるお姉さん格の少女の前に座って品定め、ネック



晩御飯は何？
フライパンで食パンをトースト中のコック

レス、プレスレットなどを少々購入。夕暮近くから雨が降り始めたので、経営者の家の一室で夕食（野菜スープ、トースト、ご飯、ローストチキン、野菜炒め、生大根などの薄切りなど）。美味。7時過ぎに各自のテント（6人用位の大きさ）へ。既にグランドシートの上にシュラフが掛けられており、その上に畳んだ袋状のシートが置かれている。

寝仕度をしているとポーターが湯たんぽを持って来た。

12月5日 6時頃人声で目覚め、慌ててテントの外へ。艦長、運用長、伊藤ドクターお三方揃い踏みで北の方角を眺めていらっしやる。雨は上がったが未だ雲は多い。しかし然し、その雲の上に、天辺をピンク色に染めたアンナプルナ（8091m）の上部が顔を出し、マチャプチャレ（6993m）の鋭い稜線もかすかではあるが見える。目が慣れてくると、A- と殆ど重なって見えるアンナプルナサウス（7219m）も見分けがつくようになる。6時半頃、



お味はいかが？

紅茶と洗面器 8 分目ほどのお湯が供されて洗顔。アンナプルナ、マチャブチャレ共なかなかその全容は見せないが、神々しいとしか言い様のない美しさに圧倒される。7 時半頃朝食（米粥、トースト、葱のオムレツ、大根と人参の塩漬け、千切りキャベツ、紅茶）。9 時前出発、石段混じりの割になだらかで

美しい林間コース。写真を撮りながらゆっくり下る。マチャブチャレ、アンナプルナ（7525 m）（7939 m）それに続くラムジュンヒマールはかすかに見えるがアンナプルナ（7555 m）は遂に姿を現わさなかった。尾根道の下

の谷の斜面のみごとなばかりの千枚田に感心しながら 10 時頃ポタナ（1880 m）の村に到着。ここからの道はフェディ～アンナプルナベースキャンプを結ぶメイントレッキングコースを辿ることになり、道幅の比較的広いなだらかな道をダンプス（1799～1650 m）へ向かう。ダンプスに入ると、街道沿いにホテル、ホステル、の類が多い。集落外れのティーハウスで紅茶休憩。急な石段を下った



オーストリアンキャンプからの眺望



眺望絶佳　ダンプスには大小様々なホステルが街道沿いに並んでいる

後、田の畔道をすこし歩き、12 時頃昼食の場所に到着。この辺は二期作で、乾期の今は short rice、雨期には high rice を植え付ける由。昼食をとる場所は、眼下にヤムディ川を望む崖縁の平坦地。オーストリアンキャンプのときと同様に、広場の隅にトタン屋根、三方を竹筵などで囲った炊事場がある。昼食は香菜入りにゅうめん、食パン、春巻き、いんげんとウインナの炒め物、薄切りソーセージ、ミートローフ、カリフラワー、蜜柑、バナナ、生野菜など。1 時半頃出発。殆ど石段ばかりの道を 30 分ばかり下ったところで、いよいよ本格的な石段下り。斜度約 40



昼食

度（殆ど絶壁としか思えない）標高差約 400~500 m（ここからは全部石段ですと言われて思わずエーッと絶叫しました）昼食直前の石段下りで既にガタがきていた膝と脹脛はすぐに悲鳴を上げ始め、後片付けの為に遅れて出発してきたポーター達には簡単に追い抜かれ、元気な男性諸氏は勿論姿もかたちも見えず。時々堅くはれあがった脹脛をマッサージしながらよたよたと 4 分の 1 程下りたところで、見兼ねたのか、後にぴたりとついてきたシェルパのバサンがすいと肘に手をのばしてきた。それからもう道行きよろしく右手にステッキ左手はヤング アンドハンサムな彼氏と、指と指とをしっかりとからませあって（ドンナモンディと言いたいところですが実情は字義通り転ばぬ先の杖）途中 4 回脹脛をマッサージしてもらいながら、ほうほうの体でやっと平地に降り立ったのが 3 時頃。諸兄は既にビールなど召し上がっておられまし



最後の試練 手前の石段の降り口から、斜度約 40 度の本格的な石段下りが続く

た。行きにフェディを通過したとき明日はここにおりてきますとシェルパ頭に言われたが、ずいぶん急な崖、道は林の中のどの辺に有るのかしらとは思ったものの、殆ど転げ落ちる程真直ぐに下るとは想像だにできなかった。よくぞ背負われないで下ったものだと、い

ま思い出すだけに恐ろしい。

フェディからは、来たときのハイエースにまた乗り込んでポカラへ。ペワ湖畔のフィッシュ テイル ロッジで宮原氏の出迎えを受けたのであります。
(元国立科学博物館極地研究部 編集)



A班： 倉田篤 古田逸子 伊藤敦之 向井正興
(フィッシュ テイル ロッジにて)



A 班

